



Q. 異常気象時代、ゲリラ豪雨対策は大丈夫か

A. 最小限の被害に食い止めている

岩村 みゆき 議員

Q 9月4日の大雨でまた冠水、浸水被害が起きた。

地球温暖化により、異常気象が恒常化しているのではないかと。なんらかの対策を講じなければ住民不安はなくならない。町の浸水・冠水対策の現状はどのようなものか。

A 経済建設部長

雨が一度に河川に集中しないようにする雨水貯留施設を町内11か所に設けてきている。総量約1万2千トンまで貯留可能である。

Q 9月4日はどのような対応をしたのか。

A 経済建設部長

一時的な排水不良、水路のごみ等が障害となり被害が発生した。用水樋門の開閉、用水路スクリーンのごみ除去等の緊急対応を行い、被害を最小限に食い止めることができた。

Q 土嚢はどこに置いてあるのか。自分で取りに行くことは出来るのか。

A 総務部長

役場倉庫に100袋、磯吉浦倉庫に300袋、スカイプール倉庫に200袋ある。平常時でも連絡をいただければお渡しする。

Q 新しい対策は何か考えているか。

A 総務部長

軽くて保管場所をとらない吸水性の土嚢の購入を考えている。

Q 三菱重工前道路の冠水対策は。

A 経済建設部長

県道内の排水施設に落ち葉、土砂が堆積することが原因である。速やかに取り除くことで解消を図っている。

Q 要援護者対策は大丈夫か。情報の共有はどのように行うのか。

A 生活福祉部長

平常時、消防、社会福祉協議会、民生委員、自主防災会等へ同意が得られた方の情報を提供している。(災害時はその限りではない)

Q 地域の共助力の向上にどのように取り組むのか。

A 総務部長

各自自主防災会訓練を通じて共助意識の向上を図る。

約2分で膨張

瞬間スピードター!!

頑丈で滑りにくく安定!!

※積み上げが容易で、中身のゲルが出ない

吸水土のう